

令和7年度(2025年度)市民委員意見交換会

開催日時:令和8年(2026年)1月24日(土曜日) 10時00分から12時00分まで

グループワークの結果(主な意見)

■トピック1(会議に参加した経験をお話そう)

●会議での発言や議論について

【よかった点】

- ・ 委員長が全員に意見を求めてくれて、必ず発言できた。
- ・ 市役所の担当者が「市民委員なのだから、市民の意見を発してくださいねですよ」と言ってくれたので、発言しやすい気持ちで参加できた。どんな意見でも聞いてもらえるという心理的安全性があった。
- ・ 出した意見が市長公約になるなど、意見を出した意義が感じられた。
- ・ 会議以外にも個人的に説明に来てくれてありがたかったが、職員の負担も大きいと思う。

【改善すべき点】

- ・ 市民委員が「わからない」と言える環境を作ってほしい。
- ・ 手を挙げて一度も発言許可がもらえなかった。
- ・ 会議室の中に入った時、偉いと思われる方が多く座っていて、気圧されてしまった。
- ・ 専門委員の方々がグループで議論していて、市民委員は蚊帳の外になっている気がして寂しかった。
- ・ 専門家の常識と市民委員の知識にズレがあると感じた。会議に参加する前提としての知識がないと難しいと思う。自主学習は負担が重く、事前研修等が必要だと思う。
- ・ 専門用語を使わない、もしくは使う場合は説明するようにしてほしい。また、言葉の定義をあらかじめ共有してから議論する必要がある。
- ・ 専門家の意見が市民委員よりも優先され、意見が反映されるのかという心配があった。
- ・ 委員と市(事務局)の一問一答になりがちだと感じた。

●会議の委員構成や運営について

- ・ 市民委員として何を求められているのか、始まってみないとわからないため、委員としての関わり方があらかじめ分かるとよい。
- ・ 資料は分量があることが多く、事前に送ってもらえると助かる。図表等が使われていてわかりやすい資料だとなおよい。現地視察等も理解を深めるためにはよかった。
- ・ 会議ごとに準備や進め方に差があることが分かった。それぞれの会議で委員負担を定量化できるようになるとよい(事前連絡や議論の進め方など)。市役所内で会議運

営のノウハウ等を共有してほしい。

- ・ 経験のある委員が固定化している印象がある(あて職の委員も含む)。また、委員の年代にも偏りがあると感じた。
- ・ 市民委員に対して謝礼がある事をアピールして募集、依頼した方がよい。

●会議の開催回数や時間について

- ・ 会議の回数は3~4回でちょうどよかった。/会議の回数が多かった。
- ・ 座長のモデレーターとしての力量が良くも悪くも会議の円滑な進行に影響すると感じた。会議によって差も大きい。
- ・ すごい人たちが集まっていて、もっと議論できそうなのに、議論の内容が多すぎて時間が足りないことがあった。時間配分の工夫が必要かもしれない。
- ・ 休日、平日夜、オンライン参加等、様々なライフスタイルの人が参加できるとよい。

●市民委員に期待される役割について

- ・ 目的は理解しているが大きすぎて、自分に課せられた課題は何なのか、どういう意見を求められているのか、不安になった。
- ・ 専門家と市民委員の役割分担のすみ分けがわかりづらい。
- ・ 高い専門性が求められるので、市民委員としてどう関わればいいのか戸惑った。会議の専門性に応じて、市民委員を入れない判断をしてもよいのではないか。
- ・ 有識者や専門家に対して市民の立場で何が言えるのか、そもそも市民として参加することに意味があるのか疑問に思った。本来、市民の代表は市議会議員なのではないか。

●その他

- ・ 会議に参加して、つくば市職員の熱い思いを知ることができた。また、自分にもできることがあるとわかった。
- ・ つくば市内でどのようなプロジェクトが、どのような意図で実施されているか分かったのでよかった。

■トピック2-1(市民委員の選考方法について)

●市民委員の募集について

- ・ 若い世代の参加を増やすため、SNS等広報紙以外のチャンネルでの周知や窓口(例えば大学、高校など)を広げたらよいのではないか。また、会議中の子ども見守り(託児)などを検討する必要があると思う。
- ・ つくば市外からつくば市に勤めている人への周知(法人対象等)を充実できるとよい。
- ・ 任期が終わった委員に継続して別の会議の募集案内を送るとよいのではないか。

- ・ 外国の方がもっと参加できるとよいのではないか。

●市民委員の選考について

- ・ 「公募」と「名簿」では、「公募」が多い方がよいのではないか。興味関心がある方がより積極的な意見が出そう。
- ・ 公募と名簿のバランスも必要だと思う。
- ・ 公募における選考面接では圧迫感があった。
- ・ 公募選考において、小論文の義務が無くなったのはよいと感じた。一方で、こちらの課題の捉え方や考え方を理解していただく上では、あってよかった。
- ・ 市民委員に求められている人材像が明確でなく、選考時に何を判断されているのかを明確にしてほしい。
- ・ 委員等候補者名簿に登録したことを忘れた頃に市民委員に選ばれてびっくりした。
- ・ 新たな選考方式として、市民委員から次の市民委員を推薦するとよいのではないか。
- ・ 以前、つくば市に住んでいた人も参加できる仕組みを検討していただきたい。外からつくば市を見ることができる。

■トピック2-2(当事者の市政参加について)

●市民委員の必要性について

- ・ 市長がいて、市議会議員がいて、市役所の職員がいて、そもそも本当に市民委員が必要なのか疑問を感じる。
- ・ 市は市民にどういったことを求めているのかを明確にすることが重要だと思う。

●当事者とその意見の取り扱いについて

- ・ 当事者が誰なのか、その定義をよく考える必要がある。
- ・ 当事者のことを考えて話し合いをしているが、当事者の声をもっと聞きたいと思った。
- ・ 審議会等への参加者(市民委員)は当事者がよい。例えば、子ども関連の施策については、当事者として子どもの意見を取り入れてほしい。
- ・ その領域に関心がある人の議論とその領域の当事者による議論はどちらも大切で、それぞれ区別して考える必要があると思う。
- ・ 一人の意見を取るとき、どのくらいづれているか、外れ値かもしれないということを考える必要がある。一つ場で広くたくさんの意見を集めることは難しい。
- ・ 当事者の中には、自分の意見が言えない状況(会議の場に来る余裕がない、時間がない、物理的に難しい等)もありうる。ヒアリングにこちらから出向くなど、会議の場に来なくても、集合体としての意見を吸い上げられるとよいと思う。
- ・ 会議の場で、当事者を対象としたアンケート結果を基に議論したが、十分に生かされているか疑問に感じた。せっかく当事者から集めた意見なので、フル活用してほしい。

グループワークの様子



写真1)各テーブルの様子



写真2)全体での意見共有の様子